

タイピックだより

12月号

2016.11.20発行

Vol.48



二〇一六年も残すところ一ヶ月となりました。皆様にとって、この一年はどのような年でしたか。夏に開催されたリオデジャネイロオリンピックでの日本人選手の活躍には胸が躍りました。試合を見ていると、見ているこちらもちが熱くなり、視線が釘付けになりました。競技に魅せられたのは

もちろんですが、選手の方々の練習や競技への真摯な姿勢に感化された人も多いのではないのでしょうか。競技後のインタビューで、多くの選手が「感謝」と口にしていました。が、物事を素直な心で受け取り、感謝の心が自然と生まれるような日々を送りたいと思われました。

冬を身近に感じるようになってきました。山でも街でも、葉が落ちて、丸裸になった枯れ木が目に入ります。昔の人は、「冬枯見(ふゆがれみ)」「枯野見(かれのみ)」といって、花見や月見のように、晴れた日に枯れた景色を見に行き楽しんでいました。寒々しい景色に、どんより憂うつな気分になるという人も、そう思いながら枯れ木を見ると、今までとは違って見えるかも知れません。夜、枯れ木の枝越しに見る星を「枯木星(かれぎぼし)」というそうです。見方を変えると、枯れ木も星を引き立てる魅力のある景色に見える気がします。心の持ち方一つで楽しめる冬も良いものですね。



なくてはならない水だから
安心安全な水をいつもそばに



無料お試し実施中!

お水の宅配始めました

環境にやさしく、おいしく安全な水を皆さまの
ご家庭やオフィスにお届けします。
ウォーターネットのウォーターサーバーは、
いつでもお水もお湯もご利用いただけます。
ご用命は、担当営業にお問合せ下さい。

必要とされる人へ、必要とされる会社へ

Typic 株式会社 タイピック

〒698-0023 島根県益田市常盤町7番3号
Tel. (0856) 23-2800 代 Fax. (0856) 22-5592 番
<http://www.typic.jp>

社長の つぶやき



致知出版社が主催する第六回社長『徳望を磨く』人間学塾に参加し、今回は古典の『呻吟語』を学んでいるが、今まで勉強をしてこなかった私には難しい勉強会である。ただ、難しいと逃げていたのではない。今までだってどうにもならないので、少しでも自分のものにしようと思っただけでいる。

この塾は難しいばかりでなく、逆に各界で活躍されている方の講演や藤尾秀昭社長の素晴らしい講演を聞くことが出来るし、全国から集まる致知の多くの愛読者と様々な出会いと学びがあり、これを楽しみに参加している。

今月参加の塾で、致知出版社の社員の皆さんが受講された内容が本として出版されていると聞き『仕事の神様がひいきしたくなる人の法則』(著者井垣利英、致知出版社発行)を購入し、帰りの飛行機のなかで一読した。

この本を書かれた井垣利英さんは、経営の神様と呼ばれている船井

幸雄さん、松下幸之助さん、稲盛和夫さんから学んだことを実践し、講演されていると知り、私はこのお三方の本を読み、書き写しを行いながら学んでいるので大変興味をもって読み始めた。

なるほど致知出版社で社員教育のために講演されるだけあって素晴らしい内容である。致知出版社の藤尾社長は「読書は良い言葉に出会う旅」と言っておられたが、この本には「人は幸せになるためにうまくできている。」とある。今まで学んだことをこの本を何度も読みながら実践しなくてはならないと思っている。

私はスーパーで買い物をした時や飛行機から降りる時も必ず「ありがとうございます」と言っていました。これは葉をかけるようにしている。これは今自分が生活していけているのは、食材や衣服も自分でつくれるものでもないし、作ってくれる人がおり、売ってくれる人がいるから食べていける。飛行機で早く移動できるから仕事が出来ているのだから「ありがとうございます」と言っています。この本には「ありがとうございます」という言葉が、地球

上でエネルギーの高い言葉とある。「ありがとうございます」を多く発し何事にも感謝しながら生活したいと改めて思った。

私は先月のつぶやきにも書きましたが、安岡正篤先生の一日一言と倫理法人会の万人幸福の栞、致知出版社からメールで送られてくる一日一言を毎日書き写し、様々な本を読んで自分をどう変えられるか人実体験をしています。下りのエスカレーターを一生懸命上に向かって歩き続けるようなもので、これを止めたら下り坂だと思っている。



わが社の ほっとニュース



社内研修で気持ちもスキルもアップ
タイプックでは、社長の方針に従業員の研修や資格取得支援制度があります。

先日、インストラクター研修として、話し方と脳の働きを組み合わせた研修「ハッピートーク®トレーニング」を行いました。ゆっくりやさしいパソコン教室に通って下さる生徒さんにより質の高いサービスをご提供できるように、スタッフ自身が毎日を前向きに、そして、プラス思考・行動・習慣へと導く研修です。これから、パソコンの技術だけでなく、人間力の向上も欠かさないよう定期的に研修を行いたいと思っています。

この研修は、様々な年齢層の方をハッピーにできる素敵な研修です。ご興味のある方は、是非システム課山崎までお問合せ下さい。





闘魂

村上 貴志

致知を読んで感じたことは、前文の所で、オリンピックの結果の記事がありますが、選手が魂をオリンピックに向けて闘つてきた成果が出たのだと感じました。でもその裏での個人での気持ちとの闘いが大事だと読んで思いました。スポーツだけではなく、人生や仕事においても必要な事だと思いました。文中に闘魂は外よりむしろ内に向けられるべきだとあります。外に向けて前に内、自分自身に向け、心の部分、気持ちに勝たなければ、何も成し遂げる事は出来ないと感じました。仕事において、目標をあげ、それに向かふとつていくのか、様々な事に向かふとつていくにあたり、苦しい事などがあつた場合に勝つていかないと達成はないと思います。そのために何をしないといけないのかを、しっかりと考えていく必要があると思います。それが人生にも生きてきて来ると思います。文中の平澤興氏の言葉が本当の闘魂だと思います。自分自身が高い目標を持ち、達成のために自分の中で闘い、日々成長していかないとけないと思います。

言葉は自分たちを表現する武器

松田 美穂子

言葉で人に伝えられない。考えたらとてもつらい事です。自分の思いが人に伝わらない、まして梨穂さんの様に体の自由がきかず、ジエスチャーも書く事もできず、自分がいついてほしいという希望もかなわない。

そんな24年間をすごされたにもかかわらず、前向きに、自分をしっかりと持つて育つておられる。ご本人の気持ちの強さを感じますが、まわりの方、特に、お母様がしっかりと愛情をそそがれ、そばに寄り添つておられたからこそ、すすく育たれたのではないかと思います。梨穂さんの発病から一変してしまつた生活に負ける事なく、子供の事を考えながらも自分の仕事もこなしている眞理さんの生きる力強さを見習わなければいけないと思います。

我が闘魂の人生

浅野 成耶

今回のテーマは、闘魂ということですが、かなり熱い思いを持つておられる方の特集でした。闘魂と聞くと誰かに勝つために勝負をすることなのかと思いましたが、ここに書いてあることとあり、常に自分に対する闘いであり、周りを敵と考えず自分がいかに意志を貫くか。ということを書いておられました。常に自分に厳しく、自己成長のために闘い続けるというのはとてもすごいなと思いました。改めて自分は、こんな思いを持つて生活しているかと思つとまだまだ自分に甘いと感じました。妥協することは、簡単にできますが自分に厳しくし自分と闘つていくことは簡単にはできません。嫌なことから逃げたくなるのは当然のことかもしれませんが、そのチャンスを抑むか握まなないかで自分の人生が変わってくるのかなと思いました。嫌なことにも、前向きに取り組み、乗り越えていくことで自分の成長に繋げていけたらいいなと思いました。

誕生日の決意

印刷事業部

寺井 政徳

タイピックに入社して気がつけば12年。長男も長女ももう成人。末っ子は来年春には進学で益田を出ていく。年月がたつのは本当に早いなと改めて思いました。今、振り返ると怒涛の12年だったように思います。後さき考えず、何もかもがむしやうに、感情の赴くままとにかく真直ぐに突き進んできました。そんな私も今年で47歳になります。ここ数年で多くの本を読ませて頂き、自分では感じたことはありませんが、ここ最近では妻から少しは丸くなったかな?と言われる位まで成長?できました。入社時



益田教室

石川 香里

早いもので、40代最後の一年を迎えます。20代の頃と違い体のあちこちにガタが



きているのを切に感じています。一日の疲れが寝たらスッキリというわけにもいかず、朝ため息がでることもありました。しかし、職場に出勤すると、スタッフの元気な挨拶で「私も負けずに元気な声をだそう!」と思えるのです。生徒さんが来られた時に、大きな声で挨拶!!を目標にし、パソコン教室に行けばなんだか元気をもらふなあ、と思つていただけるよう笑顔で挨拶を心がけていきます。

には右も左も分からず、とにかく皆さんに迷惑をかけないように必死に努めてきましたが、周りの社員のみなさんの手助けがあつて初めて今の私があるのだと深く感謝いたしております。弊社では人間学という他ではなかなか耳にしないことを学ばせて頂いています。おそろくこれから今までの何倍という本を読んで学んでいくんだろうと思います。今日より明日、明日より明後日と日々成長できるように学び続けていこうと改めて思っています。

そして今日も笑顔がひとつ増えますように... (しも増える笑)

タイピックで新年の課題としての自分の漢字は、「土」でした。ある方に「花よりも花を咲かせる土となれ!」この言葉を頂きました。教室での花は生徒さんです。生徒さんが笑って勉強し、笑って団らんし、少しでも皆さんのお手伝いができるよう、これからも教室が笑いの花が咲くよう、笑顔の肥料をまき、元気の水をかけて楽しく過ごしていただけるよう50代に突入前の自分の心がけにしたいと思います。



ゆっくりやさしいパソコン教室

広島バス旅行

11/21

益田教室 植田 三栄子

今回のバス旅行は、朝7時にタイピックを出発、広島造幣局工場見学・広島風お好み焼き体験・平和記念資料館被爆体験講和受講の行程です。帰着したのは夜7時30分で約12時間の旅でした。参加された生徒さん35名と美人ガイド3名とカリスマ添乗員(ともにスタッフ)で「知っているようで知らない広島体験ツアー」に出掛けました。

出発は美人ガイドの宣言「バスでは寝さんよー!」から2時間40分で、予定通りの時間に広島造幣局に到着です。車中では自己紹介やクイズ、替え歌合唱等、宣言通り息つく暇もありませんでした。



自己紹介では、スタッフが事前に生徒さんの誕生日で調べていた前世占いを発表。「古代エジプト王朝で王の第2夫人です」など盛り上がりました。広島造幣局では貨幣の製造工程を2人のガイドさんが詳しく説明してくださいました。勲章・褒章の製造も造幣局でしているそうです。

昼は、お好み共和国でお好み焼き体験学習です。6つのお店にグループに分かれて本場で活躍中のプロに秘伝の技を丁寧に教えてもらいました。プロに最初からお任せで焼いてもらうグループや鉄板の前でエプロンを着用し、「せっかくだから自分で焼きましょーよ」と真剣なまなざしで鉄板の前で奮闘される方。「飲み物は、自腹ですよー」と伝えると、「カンパ

ーイ」とビールを飲みながら、楽しむグループもありました。各店舗で、具材、肉の枚数、麺の硬さなど違いを語りながら楽しく美味しく、皆さんお腹一杯満足の思い出になりました。



午後は「平和学習・原爆体験講話」です。平和記念資料館では、87歳の語り部「國分良徳さん」による被爆体験証言が始まりました。中学4年16歳の時に爆心地から1.8km離れた自宅で被爆された時の話を、ボードに貼った地図を指しながら一時間話されました。ご高齢で自らの被爆体験を若い世代に語り継ぐ姿に、強い思いを感じ、胸が熱くなりました。被爆者の高齢化が進み、年々「語り部」が少なくなってきたというそうです。戦争を知らない私達が



「あの日に何があったのか」を知り、これから生きていく上で、大切なことは何かについて考えてみる機会を頂きました。バス旅行では、ふだん受講時間が違って出て来ない生徒さんも交流することができ、新しい出会いも生まれます。同じ思い出を共有して、教室で過ごす時間がまた楽しいひとときになっていくのもバス旅行の良いところです。パソコンを勉強している同じ仲間同士の一体感があるからできる楽しい体験です。

皆様のご入会を心よりお待ちしております。



同じことを100回聞かれても笑顔でお答えします